

KPI の見直しについて（案）

1. 趣 旨

「兵庫県地域創生戦略」（平成 27 年 10 月策定）の推進にあたっては、業績評価指標（KPI）を施策・事業レベルで設定し、各年度その進行管理（アクションプランの策定とフォローアップ（＝「実施状況報告書」の作成））によって、PDCA サイクルの確立を図ってきた。

PDCA サイクルのなかでは、その時々々の施策・事業の状況に応じて、KPI（あるいはその目標値）の改善・見直しを適宜行ってきたが、戦略の中間年にあたる本年度においては、KPI とその上位にある 3 つの目標（自然・社会増減等）との関連性や、施策・事業成果の KPI への反映などの点で、個々の KPI の‘適合性’を改めて検証し、KPI のフレームワークの再構築を図り、次年度アクションプランに反映する。

2. 見直しの方向性

(1) 成果（インパクト、アウトカム）の反映

① 新たな社会指標（インパクト指標）の導入

KPI の上位の 3 つの目標とより密接に結びついた社会全体の趨勢や政策の最終的なインパクトを示す社会指標の設定を新たに検討

検討例）「20～24 歳の社会増減数」

② アウトプット指標からアウトカム指標への切り替え

成果が生まれ始めた施策・事業については、KPI も単なる施策・事業のアウトプット（結果）を示すのではなく、成果を適切に反映したものに改めていく

現行例）「センターの相談件数」 → 検討例）「相談によって就職した人の数」

(2) 状況の総合的、全体的な把握

① 統合指標の設定：県・市町施策の総合的検証

県施策のみならず、市町施策の効果もあわせた形で提示

検討例）「県・市町支援による UJI ターン就職者数」

② 相対化指標（ベンチマーク）の設定

8 大府県等の KPI を比較し、他自治体との比較が可能な指標の設定を検討

検討例）外国人都道府県別訪問率順位（H28：兵庫県 11 位）

(3) わかりやすさの追求

① 総括 KPI の細分化

総括 KPI を社会指標（インパクト）、県民意識指標、政策・施策アウトカム指標などに区分し、それぞれ毎に結果を提示

② 指標の組み合わせ、パッケージ化

関連性の深い KPI をまとめて提示

検討例）「保育所等定員」＋「待機児童数」＋「0～4 歳社会増減」

「特別養護老人ホーム新規整備数」＋「待機者数」＋「75 歳以上社会増減」

3 今後のスケジュール

8～10 月 新たな KPI のフレームワークの検討

11 月頃 地域創生戦略会議（第 2 回）に検討案を提示

3 月頃 平成 30 年度アクションプランへの反映